

箴言8-11章 「救いをもたらす正しさ」

1A 呼ばれる知恵 8-9

1B 知恵の至高性 8

1C 道端での呼びかけ 1-5

2C 正しいこと 6-11

3C 分別と力 12-31

4C 戸口での見張り 32-36

2B 二つの宴会 9

1C 知恵 1-12

2C 愚かな女 13-18

2A 正しい者 10-11

1B 富、言葉、願い 10

2B 救い、報い、大らかさ 11

本文

箴言8章を開いてください。ソロモンは、この箴言を、知恵を得よという呼びかけに、9章を費やしています。1章から9章までに、知恵を得ること、父である彼が息子に対して知恵を得ることを呼びかけています。そして10章から実際の格言に入ります。ですから、8章と9章は最後の呼びかけになります。これまで語っていたことを、まとめあげています。

1A 呼ばれる知恵 8-9

1B 知恵の至高性 8

1C 道端での呼びかけ 1-5

8:1 知恵は呼ばわらないだろうか。英知はその声をあげないだろうか。8:2 これは丘の頂、道のかたわら、通り道の四つ角に立ち、8:3 門のかたわら、町の入口、正門の入口で大声で呼ばわって言う。8:4 「人々よ。わたしはあなたがたに呼ばわり、人の子らに声をかける。8:5 わきまえない者よ。分別をわきまえよ。愚かな者よ。思慮をわきまえよ。

私たちは前回、見知らぬ女が通りで、わきまえない若者に呼びかけ、自分の家に来るようにいざなったところを読みました。ソロモンは、こうした女と対比させて、知恵が道のかたわらで、大声で呼ばわっているように描いています。

見知らぬ女から誘いを受けるというのが、道端での出来事であり、実際の場面であるのと同じように、知恵を得るのも道端において、実際の場面においてであることを知るのはとても大切です。知恵は、知恵蔵のような学校で知識を蓄えることのできるようなものではなく、主に命じられたこと

をその必要な時に当てはめる神の力であります。私たちは前々回、主がそのために御霊を注いでくださり、そこで言葉をくださることを読みました。「1:23 わたしの叱責に心を留めるなら、今すぐ、あなたがたにわたしの霊を注ぎ、あなたがたにわたしのことばを知らせよう。」聖霊が、知恵をその時に与えてくださり、私たちが主の命令を行なうことができるようにしてくださいます。

2C 正しいこと 6-11

8:6 聞け。わたしは高貴なことについて語り、わたしのくちびるは正しいことを述べよう。8:7 わたしの口は真実を告げ、わたしのくちびるは悪を忌みきらうからだ。8:8 わたしの言うことはみな正しい。そのうちには曲がったことやよこしまはない。8:9 これはみな、識別する者には、^{せいちよく}正直、知識を見いだす者には、正しい。8:10 銀を受けるよりも、わたしの懲らしめを受けよ。えり抜きの黄金よりも知識を。8:11 知恵は真珠にまさり、どんな喜びも、これには比べられないからだ。

知恵がいかに高貴なことであるかを、語っています。それが正しく、真実であることを主張しています。たとい、その過程でその正しさや真実が挑まれたとしても、天において、確かに正しく、真実であると確認して、納得できるものなのです。大きな都バビロンが倒れた時に天で大歓声がして、「神のさばきは真実で、正しいからである。(黙示 19:2)」と言いました。今、私たちが悟ることができずとも、後には確かに正しいと心の奥底から、ほたたえることのできるものなのです。

そして、銀よりも、真珠よりも貴く、喜びがあるということですが、財産がどこに動いているかによって、私たちの心がどこにあるかが明らかにされます。財産は人を動かす、力のあるものだからです。ですから、知恵のほうを財産よりも優先させることによって、確かにその人が知恵を貴いものとしているかどうか分かります。

3C 分別と力 12-31

8:12 知恵であるわたしは分別を住みかとする。そこには知識と思慮とがある。8:13 主を恐れることは悪を憎むことである。わたしは高ぶりと、おごりと、悪の道と、ねじれたことばを憎む。

悪を憎むということが、次第に薄れてきている時代に私たちは入っています。昔はあまりにも衝撃的でその事実を受けとめるのが難しいものであったものが、何度もそうした悪を目にする中で、いつの間にか神の憎まれるものはさほど悪いものではないと感ずります。後の時代になると、「良心が麻痺する」という言葉が出てきますが、そうなるのです(1テモテ 4:2)。

8:14 摂理とすぐれた知性とはわたしのもの。わたしは分別であって、わたしには力がある。

ここの「摂理」は「計りごと(口語訳)」とも訳すことができます。英語ですと Counsel です。私たちはカウンセリングという言葉がありますが、カウンセリングを受ける時は、神の知恵そのものによって行われる必要があります。人の意見ではなく、神がこの状況の中で何を願っておられるのか、こ

れを祈り求め、判断するのです。

そして、「わたしには力がある。」と言っています。次に、王たちを動かすのも知恵であり、富が動くのも知恵であり、さらにこの天地が造られたのも、知恵によることを話していきます。

8:15 わたしによって、王たちは治め、君主たちは正義を制定する。8:16 わたしによって、支配者たちは支配する。高貴な人たちはすべて正義のさばきつかさ。

私たちの今、学んでいる知恵というのは、権力者をも動かすところの知恵であります。ダニエルが、ネブカデネザルの見た夢を神から啓示を受け、その解き明かしも与えられた時に賛美しました。「2:20-21 知恵と力は神のもの。神は季節と時を変え、王を廃し、王を立て、知者には知恵を、理性のある者には知識を授けられる。」アメリカの国会議員の中で聖書研究会があり、実は日本の代議士の中にも、キリスト者の集まりがあります。そこで聖書の言葉が引用されます。神は確かに、ご自分の知恵をもって王たちをも立てておられるのであり、政治をつかさどる人々が聖書に触れるということは、とても有益です。そして後に来る御国においては、私たちキリスト者が、キリストと共にこの地を統べ治めるのです。

8:17 わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に捜す者は、わたしを見つける。8:18 富と誉れとはわたしとともにあり、尊い宝物と義もわたしとともにある。8:19 わたしの実は黄金よりも、純金よりも良く、わたしの生み出すものはえり抜きの銀にまさる。8:20 わたしは正義の道、公正の通り道の真中を歩み、8:21 わたしを愛する者には財産を受け継がせ、彼らの財宝を満たす。

富もまた、主が知恵によってそれを正義によって動かしてください。主は、わずかな物に忠実な者に対して、大きなものを任せくださり、世界の富を相続するようにしてください。

8:22 主は、その働きを始める前から、そのみわざの初めから、わたしを得ておられた。8:23 大昔から、初めから、大地の始まりから、わたしは立てられた。8:24 深淵もまだなく、水のみなきる源もなかったとき、わたしはすでに生まれていた。8:25 山が立てられる前に、丘より先に、わたしはすでに生まれていた。8:26 神がまだ地も野原も、この世の最初のちりも造られなかったときに。8:27 神が天を堅く立て、深淵の面に円を描かれたとき、わたしはそこにいた。8:28 神が上のほうに大空を固め、深淵の源を堅く定め、8:29 海にその境界を置き、水がその境を越えないようにし、地の基を定められたとき、8:30 わたしは神のかたわらで、これを組み立てる者であった。わたしは毎日喜び、いつも御前で楽しみ、8:31 神の地、この世界で楽しみ、人の子らを喜んだ。

驚くべき言葉です。この天地とその不思議に触れる時に、私たちは神の知恵に圧倒されます。天地創造にこそ、神の知恵がいかに優れたものであることが明らかです。そして大事なものは、この

地上を歩まれたイエス・キリストご自身が、御子として、ここに書かれている創造主としての神の知恵になってくださいました。「コロサイ 1:15-17 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も權威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子にあって成り立っています。」

4C 戸口での見張り 32-36

権力、富、そして天地万物でさえ知恵によって支配されているのですから、私たちがどれほど、知恵を尊ばなければいけないかは一目瞭然です。そこで知恵のために、その戸口で見張りなさいとソロモンは命じます。

8:32 子どもらよ。今、わたしに聞き従え。幸いなことよ。わたしの道を守る者は。8:33 訓戒を聞いて知恵を得よ。これを無視してはならない。8:34 幸いなことよ。日々わたしの戸口のかたわらで見張り、わたしの戸口の柱のわきで見守って、わたしの言うことを聞く人は。8:35 なぜなら、わたしを見いだす者は、いのちを見いだし、主から恵みをいただくからだ。8:36 わたしを見失う者は自分自身をそこない、わたしを憎む者はみな、死を愛する。」

熱心に聞き、一心に聞く態度を、戸口の柱のわきで見守るというような言い方をして表現しています。そして、それを「日々」行います。私たちがキリストに日々聞くというのは、まさに神の願われていることです。まだ始めている方は、ぜひ神の知恵であられるキリストに聞く時間を、聖書を通して聞く時間を、朝に持ってください。

2B 二つの宴会 9

9章は、知恵と愚かな女がそれぞれ、わきまのない者を家に招こうとする、二つの呼びかけが書かれています。

1C 知恵 1-12

9:1 知恵は自分の家を建て、七つの柱を据え、9:2 いけにえをほふり、ぶどう酒に混ぜ物をし、その食卓も整え、9:3 小娘にことづけて、町の高い所で告げさせた。9:4 「わきまのない者はだれでも、ここに来なさい。」と。また、思慮に欠けた者に言う。9:5 「わたしの食事を食べに来なさい。わたしの混ぜ合わせたぶどう酒を飲み、9:6 わきまのないことを捨てて、生きなさい。悟りのある道を、まっすぐ歩みなさい。」と。

先ほどは、知恵は街角で叫んでいましたが、招かれた後は共に食事をするようになっていることがここから分かります。まさにイエス様が、熱心に悔い改める者に約束してくださったことです。「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、

彼のところには行って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。(黙示 3:20)」

9:7 あざける者を戒める者は、自分が恥を受け、悪者を責める者は、自分が傷を受ける。9:8 あざける者を責めるな。おそらく、彼はあなたを憎むだろう。知恵のある者を責めよ。そうすれば、彼はあなたを愛するだろう。9:9 知恵のある者に与えよ。彼はますます知恵を得よう。正しい者を教えよ。彼は理解を深めよう。

午前礼拝に話した通り、知恵のある者と愚かな者との違いは、その知識の量ではなく、聞いている心の態度であります。心の態度が間違っていると、知識があればそれだけ愚かな者になっていく可能性すらあります。元々、主の計らいは人を正すものです。「2テモテ 3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」戒めとありますが、それは「あなたのしていることは、間違っているのだよ。」と教えるのです。そして、それを正して、正しい道に導き、そしてその中に留まっている義の訓練を受けます。

ですから自分のしていること、考えていることを是認してもらいたい、正されること、戒めを受けることは嫌がる人は、いつまでも悟ることはできず、愚かさを繰り返すのです。つまり霊的な成長が阻まれ、そこでストップしてしまうのです。けれども、主にある兄弟また姉妹として、愛を込めて真理を語る、その言葉を主にあって受けとめ、主に祈る材料としていくのであれば、その人は成長します。成長から成長へと良循環の中に置かれます。

9:10 主を恐れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは悟りである。9:11 わたしによって、あなたの日は多くなり、あなたのいのちの年は増すからだ。9:12 もし、あなたが知恵を得れば、その知恵はあなたのものだ。もし、あなたがこれをあざけるなら、あなただけが、その責任を負うことになる。

つまり、「私は知恵について、これだけのことを語った。後はあなた次第だ。」ということです。あなたが受け入れるのであれば、あなたは確かにその幸いを得る。けれども、受け入れないのであればその結末は必ず受けることになるということです。

2C 愚かな女 13-18

9:13 愚かな女は、騒がしく、わきまえがなく、何も知らない。9:14 彼女は自分の家の戸口にすわり、町の高い所にある座にすわり、9:15 まっすぐに歩いて行く往来の人を招いて言う。9:16 「わきまえない者はだれでもここに来なさい。」と。また思慮に欠けた者に向かって、彼女は言う。9:17 「盗んだ水は甘く、こっそり食べる食べ物ほうまい。」と。9:18 しかしその人は、そこに死者の霊がいることを、彼女の客がよみの深みにいることを、知らない。

愚かな女の呼びかけであります。知恵と同じように呼びかけていますが、その結果が死であるこ

とを教えています。愚かな女は、盗むこと、こっそり食べることを誘っています。いかがでしょうか、私たちが心を悪くする時に、それは表に出すことなくこっそり行ないます。表向きは正しいように見せかけて、その悪を自分の胸のうちで弄ぶのです。しかし、そうすることによって自分の魂を死のほうに持って行ってしまっているのだ、ということです。

2A 正しい者 10-11

そして 10 章から、本格的にソロモンの格言に入ります。正しい者と悪者の対比を小刻みに行なった格言です。15 章まで続きます。詩篇の始まり第一篇も同じでした。「幸いなことよ。悪者のほかりごとに歩まず」と始まり、「まことに、その人は主の教えを喜びとし」と正しい者が描かれて、そして「悪者は、それとは違い、まさしく、風が吹き飛ばすもみがらのようだ。」と書いてありました。

ここで再び忘れてならないのは、この正しさは神から来るものであり、神との正しい関係から来るものだということです。横の関係、人と人のつながり、地上での生活が書いてありますが、あくまでも主との正しい関係、その縦のつながりから横の關係の正しさがあります。そして神との正しい関係、その縦の關係も、神から出てくる正しさであり、私たちがふりしぼって正しくなることではありません。「主を恐れることが、知恵の始め」であることを思い出してください。主を信じること、主に拠り頼むこと、その信頼が人を義と認めさせます。

1B 富、言葉、願い 10

10:1 ソロモンの箴言 知恵のある子は父を喜ばせ、愚かな子は母の悲しみである。

ソロモンは九章までにおいて、「わが子よ、知恵を得よ」と命じていました。そうした知恵を受け入れる子は父の喜びです。息子を愛する父が、自分の子を自慢する姿が思い浮かびます。それと対照的に、「愚かな子は母の悲しみ」です。愚かな子がいれば父は口をつぐみます。アムノンを殺したアブシャロムに父ダビデは会うことをしませんでした(2サムエル 13:39)。けれども、母には直接的に悲しみがもたらされます。母が直接、被害を受けます。そして、息子がこれから、巣だっとう生きるのか、そのような親の心配も次からの箴言に反映されているでしょう。

10:2 不義によって得た財宝は役に立たない。しかし正義は人を死から救い出す。10:3 主は正しい者を飢えさせない。しかし悪者の願いを突き放す。

財宝によって自分の安全保障を造ろうとするところの愚かさです。そうではなく、いざという時は正しさが自分を経済的窮地から救い出すということです。基本的にイエス様は、そのことを弟子たちに語られました。「神の国とその義をまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。(マタイ 6:33)」

10:4 無精者の手は人を貧乏にし、勤勉な者の手は人を富ます。10:5 夏のうちに集める者は思

慮深い子であり、刈り入れ時に眠る者は恥知らずの子である。

怠惰であることの戒めです。パウロはテサロニケ人の教会に対して、「働きたくない者は食べるな(2テサロニケ 3:10)」という命令しました。教会が善意で貧しい人たちに用意している金銭に頼って、仕事をしないでいた人たちがいたからです。

10:6 正しい者の頭には祝福があり、悪者の口は暴虐を隠す。10:7 正しい者の呼び名はほめられたえられ、悪者の名は朽ち果てる。

頭からの祝福です。祝福というのは、もっぱら神から与えられるものであり、人の努力や願いによるものではありません。そして悪者の口は暴虐を隠しますが、「隠す」というのが悪者の特徴です。正しい者は、自分の罪であっても主に対して言い表します。

10:8 心に知恵のある者は命令を受け入れる。むだ口をたたく愚か者は踏みつけられる。10:9 まっすぐに歩む者の歩みは安全である。しかし自分の道を曲げる者は思い知らされる。10:10 目くばせする者は人を痛め、むだ口をたたく愚か者は踏みつけられる。

無駄口を叩くことに対する戒めです。心に知恵があれば、その人は主の命令を快く受け入れます。ですから、心によく留めて思慮深くなりますが、愚か者は心を頑なにし、心が鈍くなっているで口だけが先走り、言い訳をし、反抗します。そして公正明大に歩む人は安全であります。何かを隠しながら生きれば、いつかその道は踏みつけられます。「目くばせする」というのは、相手に悪意があるのに、それを表だって言わないで、他の悪い仲間合図をすることです。これは確かに、人の心を痛めますね。

10:11 正しい者の口はいのちの泉。悪者の口は暴虐を隠す。10:12 憎しみは争いをひき起こし、愛はすべてのそむきの罪をおおう。10:13 悟りのある者のくちびるには知恵があり、思慮に欠けた者の背には杖がある。10:14 知恵のある者は知識をたくわえ、愚か者の口は滅びに近い。

正しい者の語る言葉は、人々に命をもたらします。それが聖霊による、恵みの言葉だからです。その反面、憎しみがあるところには必ず争いが起こります。その憎しみを人は隠して生きていますが、必ずそれは出てきて周りの人々に不調和と亀裂をもたらします。「苦い根が芽を出して悩ましたり、これによって多くの人汚されたりすることのないように(ヘブル 12:15)」けれども、その反対に愛は、人々の罪を覆います。罪を赦し、それをことさらに心に留めたり、持ち出したりしません。12節は、ペテロが第一の手紙の中で引用している言葉です(4:8)。

10:15 富む者の財産はその堅固な城。貧民の滅びは彼らの貧困。10:16 正しい者の報酬はいのち。悪者の収穫は罪。

ここでの貧民の貧困は、不義によって得ようとした収入、怠惰によって引き起こされることです。例えば、せっかく福祉や教会などで金銭的援助を受けているのに、それをお酒のために使ってしまうのであれば、そういうことを言っています。

10:17 訓戒を大事にする者はいのちへの道にあり、叱責を捨てる者は迷い出る。10:18 憎しみを隠す者は偽りのくちびるを持ち、そしりを口に出す者は愚かな者である。10:19 ことば数が多いところには、そむきの罪がつきもの。自分のくちびるを制する者は思慮がある。

私たちは前回学びました、「力の限り、見張って、あなたの心を守れ。(4:23)」心の中に、神からのものではないのを留めていると、そこから偽りとして唇から出てきます。ですから心をしっかり守る、ということが大切です。そして私たちは、主から聞いていくという作業を絶えず行ないながら、そして語るという自制が大切です。心に思っていることを、そのまま話せばどうなるのか？ここには、「そむきの罪がつきもの」とあります。

10:20 正しい者の舌はえり抜きの銀。悪者の心は価値がない。10:21 正しい者のくちびるは多くの人を養い、愚かな者は思慮がないために死ぬ。

すばらしいですね、主の御霊によって語られる言葉は、これだけの影響力を人々にもたらします。それが神からのものなので、ある時は人に命を与え、また養います。

10:22 主の祝福そのものが人を富ませ、人の苦勞は何もそれに加えない。

先ほども祝福は、頭に来るものであることを読みました。主が加えて与えてくださるものであり、私たちの努力によるものではないのです。ですから、私たちに必要なのはへりくだること。主がすべての主権者であられ、この方の憐れみが事を行なわせてくださることを信じることです。「ローマ 9:16したがって、事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。」

10:23 愚かな者には悪事が楽しみ。英知のある者には知恵が楽しみ。10:24 悪者の恐れていることはその身にふりかかり、正しい者の望みはかなえられる。10:25 つむじ風が過ぎ去るとき、悪者はいなくなるが、正しい者は永遠の礎である。

悪事を行なう者は、その行なったことの悪の報いが必ずあります。そして悪者もそのことを心では知っているのです。その一方で正しい者の願い、あるいは希望は裏切られません。それは美しく、パウロが信仰者の希望についてこのように話しています。「ローマ 5:3-5 そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」

10:26 使いにやる者にとって、なまけ者は、齒に酢、目に煙のようなものだ。

「齒に酢、目に煙」というのは、とても意味です。使いにやらなかったほうが、むしろましであった、もっと状況が悪化してしまったという嘆きです。私たちの主も同じではないでしょうか？主によって遣わされ、行なうべきこと、その使命が私たちにはあります。それを、しっかりと忠実にやっていくことが必要です。

10:27 主を恐れることは日をふやし、悪者の年は縮められる。10:28 正しい者の望みは喜びであり、悪者の期待は消えうせる。10:29 主の道は、潔白な人にはとりでであり、不法を行なう者には滅びである。10:30 正しい者はいつまでも動かされない。しかし悪者はこの地に住みつくことができない。

主の道というのは、厳然として存在します。これが真理であり、人が真実であろうと不真実であろうと、必ず成り立ちます。私たちがこれを拒んだところで、無くなるのではありません。変わるのは、私たちの運命です。主に従う者は生き長らえ、逆らう者は滅んでいきます。

10:31 正しい者の口は知恵を突らせる。しかしねじれた舌は抜かれる。10:32 正しい者のくちびるは好意を、悪者の口はねじれごとを知っている。

正しい者が語ることは、実が残ります。そしてそうではない言葉というのは、引き抜かれます。ですから、主がご自分の道を、ご自分を信じる者たちによって必ず成り立たせてくださるということです。

2B 救い、報い、大らかさ 11

11:1 欺きのはかりは主に忌みきらわれる。正しいおもりは主に喜ばれる。

主は正しいこと、公正なことを望まれます。それが、人と人との取り引きにおいても同じです。律法において、正しい秤を用いることが命じられています(レビ 19:35)。私たちは、人々に対してもえこひいきしない、公正であることを神は望まれるし、雇い主はその労働に見合う報酬を与えることも求められています(コロサイ 4:1)。

11:2 高ぶりが来れば、恥もまた来る。知恵はへりくだる者とともにある。

高ぶるといのは、本来の自分よりも高く見せようとする試みです。そうすると、神は正しい位置にその人を低められます。それは恥ずかしいことです。イエス様がパリサイ人や律法学者が招かれた場で上席を選んでいる様子に気づかれて、こう言われました。「あなたやその人を招いた人が来て、『この人に席を譲ってください。』とあなたに言うなら、そのときあなたは恥をかいて、末席に

着かなければならないでしょう。(ルカ 14:9)」

11:3 直ぐな人の誠実は、その人を導き、裏切り者のよこしまは、その人を破滅させる。11:4 財産は激しい怒りの日には役に立たない。しかし正義は人を死から救い出す。11:5 潔白な人の道は、その正しさによって平らにされ、悪者は、その悪事によって倒れる。11:6 直ぐな人は、その正しさによって救い出され、裏切り者は、自分の欲によって捕えられる。11:7 悪者が死ぬとき、その期待は消えうせ、邪悪な者たちの望みもまた消えうせる。11:8 正しい者は苦しみから救い出され、彼に代わって悪者がそれに陥る。

正しい者が、救われるという話です。ここの背景は 4 節、「激しい怒りの日」であります。神が激しい怒りをもってこの地上を裁かれる時です。その時にどんなに財産があろうが、そのようなもので自分を贖い出すことはできません。富に頼ってはいけないことの戒めです。ヤコブもこのことを警告しました。「聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き叫びなさい。あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。(ヤコブ 5:1-3)」

11:9 神を敬わない者はその口によって隣人を滅ぼそうとするが、正しい者は知識によって彼らを救おうとする。

これはこの世における現実です。教会というのは、正しい知識によって人々を救うおうとする働きをしています。しかし、世においては人々を滅ぼそうとする正反対の法則で動いています。これは例えると、戦場において人がどんどん死んでいくなかで、それでも救おうと懸命に働く医療従事者のようです。戦争が起こっていなければこんなことにならないのに、と思うのですが、それでも戦場に入って、人々を救い出します。霊的にもキリスト者がそういう使命を負っています。

11:10 町は、正しい者が栄えると、こおどりし、悪者が滅びると、喜びの声をあげる。11:11 直ぐな人の祝福によって、町は高くあげられ、悪者の口によって、滅ぼされる。

正しい人と悪者の影響は、町全体に及びます。イスラエルの歴史において、例えばアタルヤという女がユダの王座に不法に着いていたのですが、正統な後継者ヨアシュが七歳になったとき、匿われていた神殿から出てきました。アタルヤは剣で殺されましたが、「一般の人々はみな喜び、この町は平穩であった。(2列王 11:20)」とあります。指導者が正義を求めるか、不義を求めるかで、その中にいる人々は直接影響を受けます。ですから、政治にしても、教会においても、指導者のために祈ることはとても大切です。

11:12 隣人をさげすむ者は思慮に欠けている。しかし英知のある者は沈黙を守る。11:13 歩き回

って人を中傷する者は秘密を漏らす。しかし真実な心の人には事を秘める。

先ほどから、隣人を口によって貶めるか、それとも建て上げるかのどちらかなのだ、ということをお話しています。私たちはそこを注意していないといけません。聖霊によって私たちの心が清くされて、人々を建て上げる言葉が出るように気をつけないといけません。そして、人を愛するがゆえに、その人の失敗や罪を敢えて明らかにすることをせず、立ち直るように助けることもあります。ですから、事を秘めることもあるのです。

11:14 指導がないことによって民は倒れ、多くの助言者によって救いを得る。

指導がないということは不幸です。士師記において、人々が内戦でどんどん死んで行く姿が最後に描かれています。そのまとめとして著者は、「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行なっていた。(士師 21:25)」と言いました。したがって神を恐れる指導者が立てられることが必要ですが、さらに必要なのは助言者です。指導者が立てられ、そして良き助言者がいることによって、その人々は危機においても救われます。

11:15 他国人の保証人となる者は苦しみを受け、保証をきらう者は安全だ。

私たちは既に、他国人の保証人になることへの戒めを読みました。高利貸しから借りる人の連帯保証人になることです。先々のことを考えずに、気軽に約束をしてはいけないということです。

11:16 優しい女は誉れをつかみ、横暴な者は富をつかむ。

女に対する格言が始まりました。女に対して神は大きな価値を置いておられます。女はその美によって神は着飾っておられます。けれども、ここに「優しい女」とあるように、その美しさは内面から出てくるものであり、つまり主を愛して、主に従うところからその美が表れます。「あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を着飾るような外面的なものでなく、むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の御前に価値あるものです。(1ペテロ 3:3-4)」

11:17 真実な者は自分のたましいに報いを得るが、残忍な者は自分の身に煩いをもたらす。
11:18 悪者は偽りの報酬を得るが、義を蒔く者は確かな賃金を得る。11:19 このように、義を追い求める者はいのちに至り、悪を追い求める者は死に至る。11:20 心の曲がった者は主に忌みきらわれる。しかしまっすぐに道を歩む者は主に喜ばれる。11:21 確かに悪人は罰を免れない。しかし正しい者のすえは救いを得る。

正しい者、真実な者は確かに救いを得、それから報いを受けます。悪者は滅びます。

11:22 美しいが、たしなみのない女は、金の輪が豚の鼻にあるようだ。11:23 正しい者の願い、ただ良いこと。悪者の望み、激しい怒り。

興味深いですが、女に対する戒め、男に対する戒めが二つ書かれています。パウロが、テモテ第一 2 章で話しました。「8-10 節 ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい。同じように女も、つつましい身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の色とか、金や真珠や高価な衣服によってではなく、むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、良い行ないを自分の飾りとしなさい。」

11:24 ばらまいても、なお富む人があり、正当な支払いを惜しんでも、かえって乏しくなる者がある。11:25 おおらかな人は肥え、人を潤す者は自分も潤される。11:26 穀物を売り惜しむ者は民にのろわれる。しかしそれを売る者の頭には祝福がある。

神の律法の中に、「あなたがたの土地の収穫を刈り入れるときは、畑の隅々まで刈ってはならない。あなたの収穫の落ち穂を集めてはならない。(レビ 19:9)」という教えがあります。これは、貧しい人が後で来てそれを取りにくることができるようにするためです。このように、神は大らかになりなさいと命じておられます。そうすると、かえって主はその与える人を祝福してください。この霊的原則は新約聖書、教会の中でも同じです。「2コリント 9:6 少しでも蒔く者は、少しでも刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。」

11:27 熱心に善を捜し求める者は恵みを見つけるが、悪を求める者には悪が来る。11:28 自分の富に拠り頼む者は倒れる。しかし正しい者は若葉のように芽を出す。11:29 自分の家族を煩わせる者は風を相続し、愚か者は心に知恵のある者のしもべとなる。

善を求める人は富みます。そして悪に身を任せる人は、風を相続する、すなわち相続がなくなってしまうということです。そして、知恵ある者が支配します。

11:30 正しい者の結ぶ実はいのちの木である。知恵のある者は人の心をとらえる。11:31 もし正しい者がこの世で報いを受けるなら、悪者や罪人は、なおさら、その報いを受けよう。

これが今日のまとめになるでしょう。正しい者は実を結びますが、最終的には「いのちの木」を相続します。エデンの園にあったあの木は、天のエルサレムにおいて、都の中央から流れる生ける川の両岸にあり、実を結ばせます。そして、正しい者はかの世においてこのように報いを受けるだけでなく、今も、必要が満たされる形で報いを受けます。イエス様が言われました。「マタイ 19:29 また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。」これが信仰によって義と認められた者たちの姿です。信仰を実生活に当てはめると、以上のような生活になります。